

大鹿HeatBeat

第 17 回 ~大鹿の人々~

紙谷 正 さん (84)



脱穀が終わった紙谷さんの田んぼでは藁切りが行われ、田起こしが終了しました。来年の春まで土を休めてあげます。晩秋の伊那谷の風物詩は朝方の谷を流れる霧と、役目を果たした田んぼから一筋のぼる煙です。もみがらを炭にするため煙突をつけて燃やしているのです。炭は田んぼの肥料となります。そんな煙が谷合から一筋、二筋とのぼりはじめると今年も新米の季節がやってきたことを感じます。水墨画にしたら味わい深い里山の風景です。今年は全体的に不作と言われますが紙谷さんの新米は今年も香りも粘りもあっておい

しいお米。壊れ米が多いものの、取れ高もまずまずでした。田んぼで死んでいたのは蛇。耕運機に巻き込まれたのでしょうか…ネズミを食べ畦を維持してくれる大切な命です。



紙谷さんのおいしい新米☆
大好評！
5キロ
2,000円
(送料別)
受付中！



主峰、赤石岳の初冠雪を記録したのは例年より十日ほど遅い11月4日のこと。雨上がりの朝、スカッと晴れた空に紅葉と雪山のコントラスト。初冬の風景となりました。家々の軒下を見ればイモがら、干し柿、大根、干しリンゴなど冬支度が進んでいます。柿の収穫時に「つだけ残すのは「かざまわし」という風習。冬場、冷たい北風が家に当たらないように風の神様に願いを込めてお供えします

近年では家畜の放牧が遊休農地を維持するのに有効とされ村おこしのために豚や牛の放牧を行っている地域も多いようです。大鹿村をはじめ、ここ南信州はかつては牧場として栄え、近代においても肉牛や乳牛の飼育など盛んに行われている土地柄です。しかし近年、糞尿の悪臭や騒音(泣き声)など近隣の苦情から酪農の経営は厳しさを増しています。大鹿村ではそんな問題に頭を悩ますことはありませんが高齢化とともに酪農から手を引く方もでてくるのは確実です。そんな中今回お尋ねしたのは青木香糸(あおきかいと)さん(30)です。ご両親は肉牛の飼育を専門とされています。香糸さんは大鹿育ちで、中学卒業と同時に地元を離れていましたが5年前に村に戻り現在、小規模ですが豚の飼育をしながら隣の松川町に肉加工の仕事がされています。5年後には国道152号線沿いに農家レストランをオープンすべく準備中です。彼女の飼育する豚ちゃんとはとても希少品種の「中ヨークシャー」。独特の甘みとコクが他の品種にはないといわれ各地でブランド豚として売り出されています。現在、そんな大鹿村のきれいな空気と水そして伸び伸びと育った豚肉セットの注文を受け付けています。1セット2000円でロース200g、肩肉230gバラ肉200gをお選びいただけます。飼育状況にもよりますが12月中旬頃から1月中旬頃の発送を予定しています。お歳暮などとしてもご活用いただけそうです。お問い合わせはk.aoki@osk.janis.or.jpまで



国道152号線を地蔵峠に向かう途中の大鹿村 上青木という集落。周辺は雑木林に囲まれ本道から未舗装の道がのびる木立の向こう…とてもこの奥に人が暮らしているとは思えない雰囲気…そこに暮らす一人の男性の存在は以前から耳にし興味があった。山本肇さん(87)を訪ねた。奥様を早くに亡くされた山本さんは現在お一人住まい。国道沿いに3反の土地を持ち、現在は1反5畝を農地として活用、米を自家用に作り、アマランサス、大豆、そばを出荷し生活費に充てている。現役バリバリお百姓さんである。正直、紙谷さんより年上の現役の方がいらっしゃることに大変驚いた。訪ねた日は大豆の収穫の日で、お手伝い

をしながらお話を伺った。今年の夏は暑かったので大豆の根がよく張っていて、肌寒い日だったが力を込めて抜くうちに温かくなってきた。大正12年生まれの子山本さん。明治27年ごろの水害で家財がすべて流され、小さい頃は国道から少し上がったところに小屋を作って生活をしていたという。今でも畑から山の方を見上げると以前の住まいの名残がうかがえる。S18年には中国の最前線へ出兵し、激戦をくり抜けてきた。多くの戦争体験者が話すように食べることに非常に苦労したといひS21年に帰還するも前年の災害で父親がなくなって一息つく間もなく妹2人を嫁に行かせるために資金集めに奔走した。当時は農業だけで生活していくことは難しく他の多くの家庭でも女性が田畑、お蚕様を担い、男性は林業、土木作業にでて生計を立てるのが主流だったように山本さんも森林組合に所属し20年間朝は暗いうちから夜遅くまでよく働いた。いのしし年だけあってその働きぶりは猪突猛進型であったに違いない。現在は春から秋は作物を育て、冬はゆっくりと本を読んで過ごすのが1年のサイクルのようだ。しかし今年からは鳥獣の襲撃をするという。つい先日、飯田の合同庁舎に襲撃の研修、試験を受けに行き見事合格！受験者の中では最高齢だった。山本さんの畑も猿や鹿の食害に遭っており「夏場、大変餌をやったで冬は捕らにゃあしょうがない！」と意気込む。パワフルである。ちなみに村に駆除をして持っていくと猿1頭2万7千円、鹿は7千円を支払ってくれる。なかなかいい値段だ。まずは敷地内で餌を試すようだが敵も利口でまず素手で餌を仕掛けても匂いに敏感でよけて通って行ってしまふ。この冬は先輩にいろいろアドバイスを受けてながら、襲撃の研究をすることが日課となりそうである。



寒い日と暖かい日が交互にきたので今までに見られない美しい紅葉を長く、色どりに豊かにたっぷり堪能しました。夜のライトアップも大好評！



働いてないといられない
遊んできると疲れる
仕事は
いくらしても
疲れる

大鹿村の宅幼老所「まめ大福」から大鹿かるた100歳からの贈りものが発売となりました。これは施設スタッフが利用者さんとの何気ない日常のやり取りの中で紡ぎだされた言葉の数々をまとめたご当地かるたで、村で生きてきたこと、年を重ねることの美しさ、生活の知恵、子育てのアドバイス、歴史の一片など私たちをやさしく導いてくれます。大鹿村をただ訪れただけではわからない「もうひとつの大鹿村」が発見できるはずですよ。このかるたの制作に携わった施設スタッフの山根さあきさん(32)は大鹿歌舞伎だけではない大鹿村を感じてもらいたい。お年よりは村の根っこ、子供は村の未来(蕾)若者は村を支える幹として今後活動していきたいとお話されています。ワンセット(1000円送料別途)ご希望の方は前島まで

大鹿スケッチ

2010
霜月
前志満くみ
第20号